



新年あけましておめでとうございます。

皆様、今年はどうなるでしょう。どんな計画を立てているでしょうか。私は、毎年これだけはしておかなければならない、こんなことをしたい、と正月に考えました。関わる組織が多いものですから、それぞれの年間計画を詳細に立てないといけません。それでも、休みの海外旅行は最優先で立てます。この正月は南ニュージージーランドをドライブし、妻が喜ぶ自然を味わうつもりでした。

それが入院生活に変わったのですが、妻ががんになったということ、食事を作ったり、片づけをしたりして、妻のメガC点滴の時間を確保しています。一々喜んで感謝してくれる妻に対して、却って申し訳なく思っています。箱入り娘の妻は、料理も家事も全くできずに結婚したので、殆ど柏崎家仕様で教えました。末娘が高校を卒業する頃から、妻の熟練に連れて私は家事に手を抜き始め、何かの時の趣味の料理くらいになっていました。妻は私の為に尽くすのを惜しまないので、私も高慢になったようです。

朝は病児保育の診察から、夕方の診察終了まで働き、3食殆ど妻が料理します。日曜は教会の礼拝でピアノ奏楽、信者さんの世話、そして金曜の祈り会、休日診療や夜急診の当番、治療方法の勉強や医師会、・・・、こんな働き者になるなんて、思いもよりませんでした。

昨年くらいから、眠れないので足を揉んでくれ、と言うようになりました。ガンの影響が出ていたのでしょうか。昨年の夏、妻が希望したウィーン旅行では体調を崩してしまい、血液検査で出血があることが判明しました。そして、内視鏡検査で大腸がんと診断されたのです。

さて、腹腔鏡による手術は4日の朝に2時間40分ほどあまり出血もなく無事に終了しました。小腸から大腸に入った所の上部に3センチ程のがんがあり、その周囲2.5センチ程を切除しました。手術後は、疲れ切っていました。当日の夜7時頃には会話ができるようになり、翌日は水を500cc飲んで、癒着を防ぐために5分ほど歩きました。翌々日は、歩かなければならないと勝手に歩き、点滴の針がずれてしまい、看護師が家族と一緒に歩いてくださいますと言われ、舌を出して恥ずかしがっていました。多くの方々から励ましとお祈りをいただき、夫婦ともども大変うれしく思っております。15日から診察できそうです。ありがとうございます。

\* インフルエンザの予防接種は、終了となりました。公立小中学校、市立

高等学校在籍者がインフルエンザと診断された際、治療が必要でしたが11月より不要となり、保護者が記載する療養報告書の学校への提出が必要となりました。

\* 病児保育のご利用には、施設ごとの事前登録が必要です。書類は、ホームページからのダウンロードか、当院1階受付で配布しています。

\* 栄養指導を前日までにご連絡がなくキャンセルした場合、2160円のキャンセル料が掛かります。

\* 体組成計を健康管理にお役立て下さい。体脂肪量や筋肉量を始め、筋肉の左右バランス、内臓脂肪レベル、基礎代謝量、骨量などの測定ができます。栄養指導のご予約を頂いている方は無料で、その他の方は1回300円(税込)で測定できます。

\* 院長の体調を考慮し、急で申し訳ありませんが、2月より診察時間を以下のように変更します。

月曜〜金曜(午前8時30分〜11時30分、午後2時〜5時10分)、土曜(午前8時30分〜11時30分、午後2時〜4時半)

病児保育は、お問い合わせください。

## 感染症で受診される方へ

発熱やくしゃみ・咳症状のある方、水ぼうそう等伝染性疾患の方は、入口、待合室・診察室、会計の流れが異なります。また、トイレ後のハンドソープによる手洗いに協力ください。

### ★ 入口

正面入口横の中央通路のインターホンを押して下さい。

### ★ 待合室・診察室

2階の、第二待合室です。

### ★ 会計

疾患によっては、廊下会計となる場合があります。

## ヨーゼフのキャンペーン

(2月8日(金) 午前まで)

C1000+B、ポーレン C2000、αリポC、レモンV / シュガー

## 聖書を読む会

1月22日(火)午後2時〜2時20分  
当院待合室にて行います。

## 《 がんの治療について 》

1980年以後、日本における第一の死因は**がん**となり、年齢が進むにつれて**がん**での死亡率も増加しています。**がん**とは、タンパク質代謝異常であるため、さまざまな器官で**がん**細胞が発見され、**がん**細胞より細胞分裂が早い消化器や骨髄は、転移する可能性が最も多い場所となります。転移については、血行性転移・リンパ節転移などがあり、**がん**と同じ血管からの血流の多い臓器、リンパ流の多い臓器は転移が起こりやすいのです。脳転移、肺転移、骨髄転移、肝転移は頻度の多いものとして知られていますが、原因は血流が多いためと考えられます。

**がん**に対する治療の成果は飛躍的に向上していると言われる中、罹患率・死亡率は年々増加しています。**がん**の治療法として、外科切除療法・化学療法・放射線照射があげられ、いずれも**がん**細胞以外の正常細胞にも影響し、患者本人が受けるダメージは大きなものとなります。抗**がん**剤に対する**がん**の反応は必ずしも均一ではなく、抗**がん**剤耐性細胞の出現も見られる場合があります。抗**がん**剤による痛みの軽減や一時的な緩和は患者の負担を和らげるため必要でないとは言えないが、果たして抗**がん**剤治療が患者本人にとって良い治療法なのかどうか疑問があげられています。

### 「**がん**と栄養」

**がん**は基本的に栄養欠損状態があり、第一の原因は正常な細胞から**がん**細胞がタンパク質を奪取し、それを栄養にして成長していくからです。第二に**がん**患者の栄養摂取不足があります。第三に消化器**がん**や化学療法によって引き起こされる消化吸収不全・組織崩壊・出血などによる栄養欠損の増悪で、第四は重要感染の影響などです。

**がん**患者に多いのが貧血です。**がん**細胞は酸素を必要としないので、脳が酸欠状態へと陥ってしまいます。また、転移や合併症などによって状態が増悪され、さらに化学療法や放射性治療によって二次的な障害が発症し、さらに加えてタンパク質を中心に栄養欠損性の造血低下が病態を悪化させており、**がん**患者にとって、貧血の改善は必須アプローチと言えます。

**がん**患者の発**がん**した細胞を調べてみると、脂溶性ビタミンであるビタミンAが全くなかったそうです。ビタミンAが欠乏すると粘膜の委縮が起こり、細胞分裂が活発になり腫瘍性のある細胞へと変化します。ビタミンAは細胞の分化を正常に維持するのに必要であるため、**がん**予防に有用だと考えられます。

### 「自己免疫強化に対する栄養治療」

**がん**は一定の大きさになると、近くの血管から自分専用の血管を引き込み、栄養や酸素を補給することで増殖し、さまざまな部位に転移しやすくなります。**がん**患者は、高齢者などの免疫機能が低下した状態の場合に発症率が高くなります。免疫能の低下は栄養状態が影響し、**がん**治療の回数をこなしていくことでも起こるため、免疫強化に対する栄養治療の強化が必要となります。

#### A. 自然免疫と獲得免疫

自然免疫とは、マクロファージ・NK細胞・多核白血球系（好中球・好酸球・好塩基球）が主役で、生まれつきもっている免疫機能のことで、非特異的に**がん**細胞を認識する生体内の監視機構です。

獲得免疫とは、さまざまな抗原に感染することで作動する免疫機能で、主にT細胞・B細胞などです。自然免疫で撃退しきれなかった場合に獲得免疫が作動します。

#### B. 補体

抗体が体内に侵入してきた細菌などの微生物に結合すると、補体は抗体により活性化され、細菌の細胞膜を壊すなどして生体防御に働きます。補体とは血液中に存在して抗体を助け、免疫反応を円滑に進める約20種類のタンパク質のことで、補体は自己免疫反応の程度を把握する目安となり、補体が低下すると**がん**にかかりやすくなります。

#### C. フコイダン

1. 免疫増強作用のあるフコイダンを摂取すると、マクロファージ（大食細胞）が活性化されるとともに**NK細胞**も活性化され、**がん**細胞膜にあるレセプターへの攻撃力が増強する。

2. **アポトーシス誘導作用**；アポトーシスは、生体にとって有害な細胞を排除するための自己防衛システムの1つで、細胞自ら死んでいく作用である。**がん細胞のアポトーシスを誘発するのはU-フコイダンのみである。U-フコイダンががん細胞の膜に存在するがん細胞表面膜レセプター（アポトーシス開始スイッチ）に対して誘発し、正常な細胞にはほとんど影響を与えない。**
3. **血管新生抑制**；EPAと合わせて摂取することで血管新生を抑制する作用がある。通常、悪性腫瘍は血管新生によって**がん細胞の栄養補給経路を確保し、加速度的に増殖することが知られている。**
4. **転移抑制**；**がん細胞が浸潤しようとしている臓器表面の接着因子と競合するためがん細胞は臓器を接着できず、転移を抑制することができる。**

## 「超高濃度ビタミンC点滴療法」

### 1. ビタミンCががん細胞を殺すメカニズム

ビタミンCそのものは**がん細胞を殺すことはありませんが、ビタミンCが体内で発生させる過酸化水素ががん細胞を殺すのです。正常細胞には過酸化水素を分解する酵素（カタラーゼとかグルタチオンペルオキシダーゼなど）が豊富にあるため、短時間で分解されるので生体には無害なのですが、がん細胞には、こういった分解酵素が非常に少ないため、過酸化水素は分解されにくく、過酸化水素によって殺されてしまいます。抗がん剤は確かにがん細胞を殺しますが、同時に正常細胞をも殺してしまいます。超高濃度ビタミンC点滴療法が画期的なのは、抗がん剤でありながら、正常細胞になら副作用を与えないことです。このような抗がん剤はいまだかつてありませんでした。**

### 2. 「高濃度」と、「超高濃度」では、効果がまったく違う

50グラム未満を高濃度ビタミンC点滴療法、50グラム以上を超高濃度ビタミンC点滴療法として区別しています。臨床試験では、50グラムを境にして、「高濃度」と「超高濃度」とでは、**がんに対する作用がまったく異なり、「高濃度」ですと単なる免疫療法ですが、「超高濃度」では、抗がん剤になるのです。超高濃度ビタミンC点滴は、がん手術後の再発・転移の予防効果があります。**

目に見えてよくわかる効果として、QOL（生活の質）がよくなります。誰が見ても、本人の身体の状態が改善している、疲れなくなった、だるさが取れた、活力が出ている、などの効果が大きいようです。効果はビタミンCの量に比例する、効果は点滴の頻度に比例する、効果はビタミンCの血清濃度に比例する、効果はビタミンCの**がん細胞殺傷能力に比例する、のです。**

### 3. ビタミンC点滴療法の十大効果

#### ① 耐性のない天然の抗がん剤である

ビタミンC点滴療法は**がん細胞に対して、薬物耐性が起きていません。これは医学の常識に反する実に不思議なことです。過酸化水素でがん細胞が死んでいくメカニズムには、3つのルートが推察されています。ひとつは、DNA（遺伝子）障害、2つめは、エネルギー源であるブドウ糖代謝障害、3つめはミトコンドリア（重要な生命活動の場）障害です。ビタミンCの抗がん作用の作用点は、がん細胞の代謝の多数箇所（マルチプルポイント）に同時に働いています。**

#### ② 免疫力を上げる

超高濃度ビタミンC点滴療法は、進行**がん**で免疫力が落ちている人でも、抗**がん**剤で免疫力の落ちている人でも、かぜさえ引きにくい免疫力にまで上げてくれるすばらしい治療法です。

#### ③ コラーゲンを増殖させる

**がん細胞の周りにはコラーゲンがたくさんありますが、ビタミンC点滴によってコラーゲンが増殖すると、これががん細胞の周りをはがらめにくく固めて、がん細胞が飛び散らないように捕捉し、物理的に抑えていくと考えられています。コラーゲンは同じ重さの鉄鋼よりも固いのです。がん細胞をコラーゲンというカプセルで包んで、増殖を防ぎ、転移を防ぎます。**

#### ④ 腫瘍血管新生阻害作用がある

#### ⑤ 活性酸素を抑える

#### ⑥ 消炎効果がある

- ⑦ 排毒作用がある
- ⑧ 鎮痛効果がある
- ⑨ QOL（生活の質）が改善する
- ⑩ がん関連遺伝子の正常化

#### 4. 超高濃度ビタミンC点滴療法の副作用

① 大量のビタミンCのために、点滴濃度が濃くなり（医学的に高浸透圧という）、血液が一時的に濃くなり、のどが渇きます。

② 空腹時にビタミンC点滴を受けると、低血糖になることがありますので、食事を摂ってから受けて頂くようにしています。

③ ビタミンC点滴を受けると腎結石ができる、ということが一部でいわれてきましたが、今や多数の論文によって完全に否定されています。確かにビタミンCによって体内のシュウ酸の合成が盛んになり、尿中のシュウ酸がわずかに増えて（まったく増えないというデータもある）、シュウ酸カルシウム結石ができることが疑われていたのですが、ビタミンCはカルシウムと結合しやすいことでシュウ酸カルシウム結石ができにくくなります。ビタミンCには利尿作用があり、腎臓内の血流がよくなり、尿の流れもよくなるために、より結石ができにくくなるのです。

#### 「がん治療のための高濃度ビタミンC点滴について」

がんの治療には、一般的には手術・放射線療法・薬物療法がとられていますが、いずれにしても免疫力や体力の低下が治療上の支障になっています。特に抗がん剤には副作用の大きさが課題になっております。そういう中でアメリカでは、政府の認可の下で高濃度ビタミンC点滴療法が臨床研究されており、現在1万人以上の医師が実践し、多くの治療成果を見出しています。マリヤ・クリニックは、アメリカのリョーダン医師から指導を受けて、2001年に日本で最初に高濃度ビタミンC点滴を始めた医療機関ですが、認知されていない日本では、長らくがんに対する補助的治療として勧めてきました。つまり、①明らかに有効な方法がない場合、②従来の治療法で改善が見られない場合、③現在確認済みの治療方法と並行して行う場合、として治療します。

しかし、補完的代替医療としての理解と治療では、治療成果が改善しづらいことを確認し、苦慮してきました。それは、中途半端なビタミンC濃度で済ませて、がん治療に伴う体調の悪さを改善するためだけのものとして理解されてきたからです。むろん、これは従来の手術・放射線治療・抗がん剤の治療を止めるということではありません。

#### ※ 院長のがんの原因についての模索

- ① 幼児から小学生までの胃腸の弱さによる極端な栄養欠損（身体の基本的形成）
- ② 長期間の機能性低血糖症による身体へのダメージ（代謝障害もあった）
- ③ 働き過ぎと休息の不足（免疫機能の劣化）
- ④ 多忙のため添加物や長期保存の食品を摂取が多かった（身体への悪影響）
- ⑤ 腸内環境の悪さ（肉類の摂取が多く、発酵食品が少なかった）

それでも、定期的な検査によりステージ1で発見することができたことは幸いでした。急遽、診察時間を変更します。ご迷惑をお掛けし、申し訳ありません。

#### ＜ 診 療 時 間 ＞（2月から下線部変更）

月曜～金曜（午前8時30分～11時30分、午後2時～5時10分）

土曜（午前8時30分～11時30分、午後2時～4時半）

休診日 木曜、日曜、祝日、年末年始

- ・各種健康保険取扱機関
- ・生活保護指定機関
- ・介護保険取扱機関
- ・特定疾患取扱機関
- ・結核予防法指定機関
- ・自立支援医療機関
- ・身体障害者認定医
- ・各種健康診断
- ・小中台小学校校医
- ・栄養医学(分子整合医学)



（携帯サイトへ）